

診察の流れ

② レントゲン

4つの角度から足のレントゲン撮影。正面はもちろん、斜めからも。また、うつ伏せになってつま先を立てて真上から親指の付け根の骨を撮影し、外反母趾の診断もします。



① 問診

安田の足を問診。「足の指を支えている横のアーチがヘタれてきて、開帳足気味。それで指が横に広がり、靴に小指が当たっています。そのせいで小指に魚の目も」(近藤先生)。



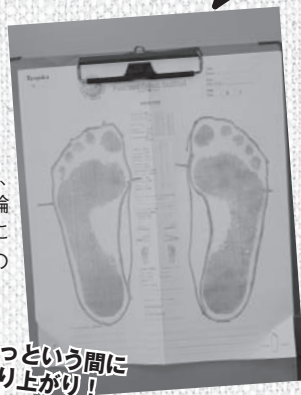
③ 靴作り

レントゲンでは足に問題なかった安田ですが、靴作りを体験してみることに。3人のシューマイスターが足の型取り、触診、保険適応の説明などを行います。靴が完成したら、寺田先生のチェックを受け終了。この間約2週間。



保険適応可能で、インソール約¥9,000〜作れます。外反母趾やタコなどの痛みから守るために、インソールにクッション性のある素材を使って保護するので歩行がラクに。

インクをのせた紙の上に台を重ね、そこに足を置き、棒で丁寧に足の輪郭をなぞります。他に、スポンジに足をのせて圧力の確認したり、足の触診して、くわしく足をチェック!



向かって右から、技師装具士の志津野さん、橋本さん。日本に10人ほどしかいないドイツのシューマイスターの資格を持つルッツさん。



「西洋人に比べ、日本人は靴に対する関心が薄い。だからファッション性重視で足に合っていない靴を履き続け、足にトラブルが起きるんです。ハイヒールを履く回数を最小限にするなど、なるべく足に負担がかからない工夫をしてください」

靴外来



近藤光一先生

「両国あしのクリニック」院長。日本整形外科医。下肢静脈瘤の治療を専門に行う。日帰りのレーザー治療が評判を呼び、診察を受けるため、海外から訪れる患者も。

DATA

両国あしのクリニック「靴外来」

東京都墨田区緑 3-17-11

☎ 03-5625-8441

※「靴外来」は木曜9時〜11時半。要予約。

保険適用（3割自己負担）の場合、インソール約9,000円〜。

小指が靴に当たって痛い!



編集 安田 (46歳)

1年ほど前から、左の小指が靴に当たって痛くなり、持っている靴のほぼすべてが合わなくなる。「歳のせいで、足が変形してきているかも。外反母趾にならないか心配です」。

ウオの目はシリコンカバーで対処!

痛みの原因であるウオの目は、機械で削り取った後、やわらかいシリコンカバーでおおいます。これで靴に当たらないよう保護。「軽い付け心地なので違和感なし!」(安田)。



医師の診断をもとに 3人の職人が靴作り

「靴外来」とは、外反母趾や、巻き爪、魚の目などの足の不調から足を守るために、足に合った靴やインソールを作る外来です」と、両国あしのクリニック院長の近藤光一先生。

まず近藤先生が足の診察をし、その診断をもとに3人の専門家が足の型取りや足の当たりどころなどをチェックし、足に合った靴を作ります。外反母趾やタコのせいで歩くのがつらいという人も、この靴でラクに歩くことができるそう。

「西洋人に比べ、日本人は靴に対する関心が薄い。だからファッション性重視で足に合っていない靴を履き続け、足にトラブルが起きるんです。ハイヒールを履く回数を最小限にするなど、なるべく足に負担がかからない工夫をしてください」